



2017 ~ 2018 年度
R I テーマ

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

ロータリー: 変化をもたらす

国際ロータリー会長

イアン H.S. ライズリー (国籍・オーストラリア)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分
ところ ホテル別府パストラル 〒874-0036 別府市東荘園町1丁目4
TEL (0977) 23-4201 FAX 25-3610
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>
E-mail: info@beppu4rc.jp

理事	佐々木久宜	理事	平野 教康	役員	会長	佐々木久宜	S A A	梶原 和朗
〃	梅津 圭二	〃	亀井 孝	副会長	梅津 圭二	直前会長	梶原 和朗	
〃	鳴海 淳郎	〃	近藤 賢司	幹事	西馬 良和			
〃	村津 忠久	〃		会計	森園 伸也			

VOL. 30 - 44
2018年5月29日

第 1376 回 例 会

会報委員長 森 宗明

◆点 鐘 12:30

◆R S B.C.R.Cの詩

◆唱 歌 四季の歌

◆ゲ ス ト 松浦 倫氏
(別府溝部学園短期大学
国際交流課 課長)

◆ビジター 神 大和男 (別府)

近藤可奈子 眞砂 鉄治
金本 龍生 木村 大成
高橋 喜巳 (以上別府北)

梶田 浩 但馬 建
中塚 茂次 高橋 郁
(以上別府東)

◆出席報告 委員長 衛藤 秀子

本 日 の 出 席	会 員 総 数	25 名
	出 席 者	13 名
	事前メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	4 名
前 々 回 の 訂 正	欠 席 数	8 名
	出 席 率	61.90 %
	出 席 率	77.27 %
	事後メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	0 名
5/15	出 席 免 除	3 名
	修 正 出 席 率	81.82 %

連 続 一 回
通 算 750 回 100 %

・メイクアップ

事前
事後 堀 (別府東)
欠席 中尾、堀、西馬、森園、高宮、土谷、
梅津、前田
理事会承認
出席免除 溝部、河村、平野(英)、木村



会長の時間

会長 佐々木久宜

みなさんこんにちは。

会長の時間です。

本日は卓話に別府溝部学園短期大学 国際交流課課長の溝部 倫さんにお越しいただきました卓話を楽しみにしています、よろしくお祈いします。

26日(土)の親睦ゴルフに参加された皆様お疲れさまでした。

今期は次回が最終戦となりますので賞金王めざして悔いのないように頑張りましょう！

昨日、青少年交換留学生事業についての会議がありました。

別府市内4RCでの受け入れとなりますので別府中央RCは2019年の3月～5月の3ヶ月留学生を受け入れるようになりました。

ホームステイは1週間単位でもよいそうなので留学生受け入れをご検討ください。

本日お越しの溝部 倫さんも交換留学に行かれたと聞いておりますので、卓話の時に少しお話も聞ければと思っております

本日もよろしくお祈いします。

幹事報告

西馬 良和

—青少年奉仕月間—

1. 本日の卓話

「グローバル人材育成と現在の問題点」

松浦 倫氏

(別府溝部学園短期大学 国際交流課 課長)

2. 本日のゲスト

まつうら 倫氏

(別府溝部学園短期大学 国際交流課 課長)

3. 管理運営セミナー開催のご案内

日時 平成30年7月14日(土)

13:00～16:30 (受付開始12:30～)

場所 ホルトホール大分

大分市金池南1-5-1 TEL 097-576-7555

出席対象者 会長、幹事、管理運営委員会(クラブ奉仕委員会) 親睦・プログラム・出席などのクラブ奉仕に係る小委員会、戦略計画委員会、事務局員、他希望者

4. 職業奉仕研修セミナー開催のご案内

日時 平成30年7月14日(土)

13:00～16:30 (受付開始12:30～)

場所 ホルトホール大分

大分市金池南1-5-1 TEL 097-576-7555

出席対象者 クラブの職業奉仕委員長(委員長に優先日程がある場合は副委員長か委員一名)、参加希望者

※今後の職業奉仕セミナー予定

①日時 平成30年9月22日(土)

13:00～16:30 (受付開始12:30～)

場所 ホルトホール大分

大分市金池南1-5-1 TEL 097-576-7555

出席対象者 比較的入会歴新しい会員と希望者

②日時 平成30年9月29日(土)

13:00～16:30 (受付開始12:30～)

場所 熊本県民交流会館パレア9階第1会議室

出席対象者 比較的入会歴新しい会員と希望者

③日時 平成31年2月2日(日)

13:00～16:30 (受付開始12:30～)

講演 渡辺好政元RI理事をお迎えして

職業奉仕を深める記念大会



場 所 大分ホテルザーズ
大分市都町3-2-24 TEL 097-535-1000
定 員 150名 (先着順)

湯布院RC 6月13日(水)の例会は、献血事業
の為 6月15日(金)に日時・場所
変更

杵築RC 6月15日(金)の例会は、会長・幹
事慰労会の為 同日18:30~焼肉
みやべに時間・場所変更

5. 5月26日(土) 9:15~別府の森ゴルフ倶楽
部に於いて「別府中央RC第10回親睦ゴルフ
コンペ」が開催されました。

優 勝:西馬良和会員

準優勝:前田哲矢会員

3 位:土谷昌志会員

参加者:佐々木久宜会長、平野英壽、亀井孝、
前田哲矢、土谷昌志、梅津圭二、西
馬良和 各会員、津末法良氏

6. 5月26日(土) 15:00~ANAクラウンプラ
ザホテル熊本ニュースカイに於いて「熊本中
央ロータリークラブ創立30周年記念式典・祝
賀会」が開催され、平野教康次年度ガバナー
補佐が出席致しました。

7. 5月28日(月) 14:30~別府市内4RC合同
事務局に於いて「青少年交換留学事業につい
ての会議」が開催されました。

出席者:平野教康次年度ガバナー補佐、佐々
木久宜次年度青少年奉仕委員長

8. お祝い

配偶者誕生日 森園 美香さん(6月1日)

※記念品をお渡しいたします。

皆 勤 佐々木久宜会員(5月17日=7年)

後藤 隆会員(5月22日=28年)

9. 例会変更のお知らせ

大分1985RC 6月11日(月)の例会は、最終夜例
会の為 同日19:00~にしおかに
時間・場所変更

大分RC 6月12日(火)の例会は、夜間例会
の為 同日18:30~ホテル日航大分
オアシスタワーに時間・場所変更

10. 次週例会の予定

「4年に一度じゃない。一生に一度だ!」

別府市長 長野 恭紘氏

※会場はホテル別府パストラルです。

11. 本日の回覧

①「第4回(新・旧)クラブ協議会」出・欠席

②「会長幹事慰労会」出・欠席

スマイルボックス 副委員長 近藤 賢司

○佐々木会長

松浦さん、別府中央RCへようこそ。卓話よ
ろしくお願いします。

ゴルフ最終戦での優勝を目指してがんばりま
す!

○村津会員

例年より少し早く、昨日「梅雨入り」となり
ました。

どうぞ穏やかな「お天気」でありますように
祈念してスマイル。

○平野(教)会員

松浦さん、帰国後すぐに別府中央ロータリー
に来ていただきありがとうございます。卓話楽
しみにしています。

○森会員

亀井さん、スペインの話をゆっくり聞かせて
下さい。



別府溝部学園短期大学の歴史、
昭和の激動のなか学校を作った創立者である曾祖母溝部ミツエについて

別府溝部学園短期大学 国際交流課 課長
松浦 倫 氏

溝部ミツエ（以下ミツエ）は、明治33年9月14日に大分県別府市亀川に生まれた。27歳の時にシングルマザーになった。手に職がないシングルマザーの生活は厳しく、「女子は資格を持たなければならない、何か技術を身につけなければならない」と一人娘を大分に残し、東京の和洋女子専門学校（現和洋女子大学）で3年間学び、高等女学校の教員になるために免許を取った。その後、第一高等女学校（現上野丘高等学校）で家政科の教員として18年間働いた。

京都府立女子専門学校（当時の女子としては最高学府であり現在の京都府立大学）被服科教授として招かれ、大分から京都へ行った。第2次世界大戦まで教員として、京都で教えた。その当時、敗戦した日本は、学校が閉鎖されていたため、大分へ戻るしか術がなかったという。

本人は、京都で教えたいという希望があったが、第一高等女学校の教え子たちの多くが『戦争未亡人』となっており、今日の糧を得るために300名近くが自宅を訪ねて来た。

当時の日本は、子どもが4～5人いるのが普通であり、ミツエは、戦争で夫を亡くした女性が、どのように生活していくかを教えなければならない、女性が一人になっても自立できるようにと、大分にとどまる決意をした。

戦争当時、京都府立女子専門学校の教員であったため、大政翼賛会、国防婦人会に参加しておらず、戦後のレッド・パージに逢わず、別府市の婦人会会長と未亡人会に推挙された。当時の日本は、大政翼賛会、国防婦人会に所属していた人達は、アメリカ軍から追放された時代であった。

1945年9月に「裁縫」の技術を教えるため自宅を開放し、「私塾」を開校した。1946年別府高等技藝学校を学校として登録し、設立。『女性が社会に出て活躍できる資格と技術を与えよう』とい

うのが、溝部学園の最初の建学の精神である。

溝部学園創立者、曾祖母ミツエ、46歳のことであった。

アメリカの進駐軍は、1945年から1953年まで別府公園がある場所に駐屯した。ミツエは、教え子たちの生活を守るべく進駐軍に掛け合い、進駐軍の軍服のワッペンを縫い付ける仕事を取ってきた。そこで得る金銭で、その当時の学生達・未亡人になった卒業生の生活を支えた。

戦後の別府。

甘いものと言えば、芋飴と化学調味料のサッカリンの入ったお菓子しかなかった。病気やケガをしたアメリカ兵が、亀川の国立病院へ搬送される時、ジープの後ろを走っていくとハリスのチューイングガムをアメリカ兵がくれた。その砂糖の甘さは、忘れることができない衝撃を受けたという。1950年前後、父溝部仁、5歳の時の記憶である。

時は変わり、1953年、昭和28年のことだった。

ミツエは、教え子の困窮と惨状を救うために自由党幹事長佐藤栄作氏（総理のちのノーベル平和賞受賞）に陳情をしに東京へ行った。政界の団十郎と呼ばれた佐藤栄作氏は、涙を流して、「わかった。明日、小笠原大蔵大臣に今の話をしなさい。」と言われ、小笠原大蔵大臣に会った。それが、『戦争未亡人に対する年金』が支給される引き金になったのである。その時の光景を祖母は、「団十郎の目からポロリと涙がこぼれた」と言っていたのを思い出す。

同年12月1日には、私財を投げ打ち、学校法人を設置し、許可された。



また、外国人財活用のために、インターンシップを導入していただけないかという話をしました。